シンポジウム

アジア文明の 21 世紀的意義

― その再評価のための基礎研究 ―

2018年 11月 4日（日）

13:00～18:00（開場 12:45～）

会場　中央大学駿河台記念館 670号室

参加自由、事前申し込み不要。定員 100 名。

第一部

電子データ活用による南宋法典の復元とその法治主義的傾向に関する研究
青木　敦（青山学院大学）

ポスト・モンゴル期アラビア語歴史叙述の地域性と普遍性
伊藤　隆郎（神戸大学）

日本宗教史論を参照したタイ仏教論構築の試み
片岡　樹（京都大学）

近代東北アジア諸地域におけるコンブ漁業の比較研究
神長　英輔（新潟国際情報大学）

戦後台湾公営集合住宅の都市生活史
白　佐立（東京大学）

東アジアの歴史和解に向けて-国際機関・域外アクターとの協力体制の構築
三牧　聖子（高崎経済大学）

支那通の諸相―辻聴花と後藤朝太郎
関　智英（東洋文庫）

第二部

合同討論会　　司 会　保坂 俊司（中央大学）

共催 中央大学政策文化総合研究所・（公財）ＪＦＥ２１世紀財団

中央大学研究所合同事務室（政策文化総合研究所）
TEL:042-674-3276/E-mail:ipcs@tamajs.chuo-u.ac.jp